

2025年度(令和7年度) 福山市公衆衛生推進協議会総会

福山市公衆衛生推進協議会 総会



6月5日(木)、福山市役所大会議室において福山市公衆衛生推進協議会総会が開催されました。各学区の代議員と理事及び受賞者、合わせて約100名が参加されました。

総会では園尾会長の挨拶の後、福山市公衆衛生推進協議会表彰規定

に基づき、公衆衛生推進委員を7年以上継続し、かつ、公衆衛生活動に貢献した19名の方に、園尾会長から、感謝状が授与されました。(表彰者のお名前は3ページに掲載)

来賓を代表して、枝広直幹福山市長、高野孝行福山市自治会連合会副会長、一般財団法人広島県環境保健協会兼森裕理事長から挨拶をいただき、参加の行政職員の紹介の後、広島県環境保健協会(以下、環保協という)地域活動支援センターの中村博信センター長を紹介しました。

続いて議長に、蔵王学区藤井望常任理事を選出して議事に入りました。第1号議案令和6年度事業報告並びに事業会計収支決算・まちづくり基金決算及び監査報告について、第2号議案令和7年度活動目標(案)・事業計画(案)及び令和7年度事業会計収支予算(案)について、第3号議案令和6年度地区衛生組織資金募集(環境・健康募金)実績報告及び令和7年度計画(案)について、第4号議案役員の選出(案)について、審議し原案通り承認・決定しました。総会後に、中村センター長に



受賞者代表

役員体制

会 長	園尾 俊昭	(道上)
副 会 長	村田 政雄	(有磨)
(兼事務局)		
副 会 長	宮宗 弘光	(赤坂)
(兼会計)		
副 会 長	小林 乙也	(樹徳)
副 会 長	大和 智廣	(本郷)
副 会 長	渡壁 和則	(横島)
副 会 長	原 敬二	(大谷台)
監 事	甲斐 勝	(神辺)
監 事	土肥 健二	(緑丘)

よる基礎研修「公衛協のはたしてきた役割とこれからの活動について」を学習しました。主な内容は①昭和20年代、県内各地に公衆衛生推進の組織が作られた。昭和32年、県内の公衆衛生組織が連携して取り組むため、広島県の連合組織(県衛連)が作られ、昭和35年に、活動資金募集(健康感謝募金)を始めて、全県共通メニューの取り組みを始めた。②県衛連は、当初は県庁内に事務局を置いていたが、運営資金の問題を確保する必要から、昭和38年に衛生検査センターを開設し、以後、現在の一般財団法人環境保健協会に発展した。③県内の各地域の公衆衛生活動の代表者が集まり、活動内容等を決めている。募金によって得られた資金のほか、環保協の行う収益事業から年間6000万円の基金の提供を受け、多くのメニューが用意されていて、各地域から要請を受けて、支援している。なお、活動メニュー等については、公衆衛生手帳を参照してください。

私たちのめざす取り組み

1 健康づくり

- フレイル予防の推進 ○特定検診・がん検診の啓発促進
- 歯と口腔から始める健康生活事業 ○健康ウォーキングへの参加 ○献血の推進
- 感染防止の徹底と新しい生活習慣の構築

2 環境保全

- ばらのまちづくりの推進 ○ごみの分別の徹底と資源再利用による減量化の推進
- 生活空間美観の確保（不法投棄抑止の地域づくり、「芦田川を守る日」一斉清掃）
- 食品ロス削減

3 地球温暖化防止活動

- 出前講座の推進 ○光熱費節約大作戦 ○地球温暖化防止推進委員の活動の充実

4 防災・減災・復興に活かす公衆衛生活動

- 交流会・研修会等の開催 ○地域実態の調査 ○災害時における対応の検討 など

5 組織づくり

- 研修会の実施 ○地区衛生組織活動資金募集（環境・健康募金）の推進
- 機能リーダー育成（環境、健康、組織運営などのリーダー）
- 学（地）区公衆衛生推進委員会活動の研修・強化
- 人材育成研修会等研修会の開催・案内
- 諸会議の活性化と充実 ○広報紙の発行 など

6 その他

- 環境と健康のポスター・標語コンクール事業への参加 ○公衆衛生大会の開催
- 広島県環境保健協会事業への参加・協力 ○ICTの活用 など

各学（地）区会長（理事）紹介 敬称略

※◎はブロック長、○は常任理事

辻野 信也（東）	黒瀬 敏正（旭）	小林 邦弘（西）	田口 明則（南）
江草 孝昌（霞）	藤本 新一（多治米）	○小林 哲仁（川口）	猪木 勝久（川口東）
篠原 伸芳（曙）	小林 康喜（新涯）	佐藤 文男（箕島）	○金尾 富子（光）
○小林 乙也（樹徳）	中島 愛子（久松台）	○崎谷 哲雄（桜丘）	松井佐代子（西深津）
中野 真茂（深津）	◎野間 晴夫（手城）	本瓦公一郎（長浜）	横山 京子（引野）
岡崎 賢治（緑丘）	三吉 繁夫（旭丘）	○藤井 望（蔵王）	○岩井 信男（千田）
橋本 尚治（御幸）	関戸 博司（大津野）	大下 裕之（野々浜）	石川 隆（幕山）
◎原 敬二（大谷台）	坂本 邦夫（春日）	水島 誠（伊勢丘）	○松本 睦夫（坪生）
竹内 佳代（明王台）	○佐藤 和司（泉）	廣川 昭慶（山手）	杉ノ原泰則（津之郷）
○宮宗 弘光（赤坂）	水野 敏彦（瀬戸）	◎下村 恒司（熊野）	津田 要介（水呑）
占部 光利（高島）	島 富美男（鞆）	高橋 松美（走島）	○村田 政雄（有磨）
橘高 勇一（福相）	中土井一成（駅家）	中山 貴広（宜山）	児玉 章造（駅家西）
七川 哲也（服部）	谷本 節夫（駅家東）	○水谷 昌一（加茂）	佐藤 郁宏（広瀬）
笠原 一彦（山野）	馬屋原俊明（戸手）	◎平川 輝司（新市）	国光 正志（綱引）
○瀧口 誠（常金丸）	宮里 久繁（金江）	岡田 邦之（柳津）	○前市 正詔（松永）
平櫛 悟（今津）	浦上由紀子（高西）	大村 勝洋（東村）	◎大和 智廣（本郷）
○小林 英志（神村）	○兼田 邦洋（田島東部）	中村 悟（田島西部）	◎渡壁 和則（横島）
村上 行雄（山南）	三谷陽一郎（千年）	岡崎 瑞穂（つねいし）	寺岡 緑（能登原）
○高橋 健二（神辺）	西川 徹（御野）	小林 紀之（竹尋）	○高垣 励自（湯田）
山成 靖（中条）	◎園尾 俊昭（道上）		

（常任理事は各学区の理事からブロックごとの定数により選任されます。）

表彰を受けられた方（7年以上継続）敬称略

橋本 吉弘（旭）	大江 克則（旭）	館上 豊明（旭）	松本 良明（川口東）
中津留健二（曙）	小林 康喜（新涯）	中村 栄男（新涯）	河城 健夫（光）
中村 政敏（緑丘）	藤井 俊昭（蔵王）	高橋 純（千田）	廣中 紀万（千田）
鶴田 潔（春日）	櫻田 光則（赤坂）	水井 靖浩（新市）	内海洋一朗（松永）
粟村 和子（松永）	平櫛 悟（今津）	平山 肇（東村）	以上 19名

ブロック・学区紹介

西部ブロック

本郷学区公衆衛生推進委員会会長 大和智廣

城山登山道の整備



じょうやま

一般財団法人広島県環境保健協会の「環境と健康のコミュニティ活動助成事業」に申請し助成を受けて、今年で3年目を迎えました。本郷町は、福山市の西部に位置し南北およそ5キロメートル、東西およそ2.5キロメートルの面積を有し、その中央部を尾道市原田町清水迫に源を発す本郷川が流れ松永湾に注ぎます。町の中央部、川の西岸に標高143メートルの大場山が有り、昔お城が有った（本郷町誌による）ことから町民は親しみを込めて城山と呼びます。山頂からは、松永湾が見え四国山脈を遠望できる時もあります。環境を整備し誰でも登れる山をコンセプトに「まちづくり委員会」にも提案し、1年目は登山道の曲がり角を中心にステップを84カ所設置致しました。アンケート結果70パーセントの方が、間隔等丁度良いとの結果でした。（横滑りに怖い所がありましたか）の問いには79パーセントの方が、（あった）との答えでしたので、2年目は、横滑り防止を中心に滑り防止柵を設置し25メートルの難所にはロープも付けました。昭和60年に結成された60会はこの山を中心に、整備、保全に力を注ぎましたが高齢化に至ったようです。又、東部森林組合様にも援助をいただいております。

3年目の今年は、昨年に引き続き横滑り防止柵を設置します。25カ所から30カ所に1.8メートルの柵を取り付け土砂の流出防止と横滑り対策とします。

環境と健康のコラボ・誰でも登れる山・山から・川から・海へと自然の環境に思いを馳せ取り組んでいきます。



ふくやま健康づくり市民会議（フクイク21）の取り組みについて

「ふくやま健康プラン2024」では、健康づくりと食育、フレイル予防、こころの健康づくり、自殺防止対策を進めています。

広島県の健康寿命は、特に女性の健康寿命が全国で最下位だったこともあり（2019年）、「健康寿命の増進」を進めています。

福山市でも、健康寿命の増進やフレイル予防を進めていますが、福山市の特定検診の受診率が広島県で最下位であることから、今年度を中心となる取り組みは、「特定検診の受診率をあげよう」となっています。

第63回環境保健夏季大学に参加して 7月17日(木) 18日(金) RCC文化センター(広島市)



本年度の環境保健夏季大学が、7月17日～18日に広島市のRCC文化センターで開催され、福山市から22名が参加しました。

17日は広島県の環境施策について、環境担当部長 岡田誠司様からの「情報提供」を受けた後、一般社団法人レベルフリー代表理事 坂本京子様から、「大切なひとを守るための防災～あなたはどうか判断し、どう行動しますか～」と題した講演がありました。「『いつも』のあなたの行動が『もしも』のあなたを守る」、「平常時にできないことは災害時にもできない」、「自分が無事でなければ、だれも守ることができない」このことを念頭に置いて、災害に備えることが大切であるということ学びました。午後は3分科会に分かれて研修しました。

18日は、オリエンテーションの後、環境保健協会より「『STOP!フレイル事業』ってどんな事業？」の紹介があり、その後、広島国際大学 健康科学部心理学科教授 田中秀樹様から「眠る門には福来る 笑い涙、絆の力!」と題した講演がありました。「何が健康かはその人の生活と人生が教えてくれる」「あなたにとっての幸福とは何か」といったお話があり、私達、高齢者世代の健康感・幸福感を高めるために何をすればいいかの理解が深まりました。午後からは3分科会に分かれて研修しました。

分科会の一部を簡単に紹介します。フレイル予防のための「運動」のきっかけづくりと継続のための「簡単な運動」を体験し、どうすれば継続できるか等について意見交換を行いました。とても有意義な2日間の夏季大学でした。



地区衛生組織活動資金募集（環境・健康募金）

令和7年7月末現在 募金 6,892,400円

ご協力ありがとうございました。引き続きご協力をお願いします。

※募金の30%は県内全域で、環境協が実施する環境と健康に取り組むメニューに使われます。60%は各学区に還元されて学区独自の事業に使われます。上記メニューは学区単位での参加が可能です。



健康づくり・食育応援！ポータルサイト
毎月21は ふくやま健康づくりの日

ふくやま 健康づくり

検 索



福山市公式LINEから
「フレイルチェック」を
クリック！11項目の質問に
答えて、フレイル予防に



会	委	副	委	広
長	員	委員長	員長	報
園	金	岩	村	員
尾	尾	井	田	
俊	富	信	政	
昭	子	男	雄	
(道)	(光)	(千)	(有)	
上)		田)	磨)	
	佐	前		
	藤	市		
	和	正		
	司	詔		
	(泉)	(松)		
		永)		
	瀧			
	口			
	誠			
	(常)			
	金)			
	兼			
	田			
	邦			
	洋			
	(島)			
	部)			
	高			
	垣			
	励			
	自			
	(湯)			
	田)			

編集後記
第二十回世界バラ会議福山大会は、世界に「ばらのまち福山」の魅力とブランド力を発信し幕を閉じました。大盛会おめでとうございます。
福山市公衛協では、祝福と参加意識向上のため常任理事有志の皆様へ廉塾ばらを育てて頂いたことにより世界イベントへ参加の喜びを身近に感じることが出来ました。
各学(地)区推進委員会におかれましては、地域行事へ参加依頼等何かと多かろうと思いますが、委員の皆様、地域の皆さまが「皆で喜び合える結果」になるよう取り組んでいきたいものです。
(園尾俊昭)